



【指導事例 1】

1 主 題 「支え合い助け合おうとする人々への感謝」〔感謝〕

2 ねらい

自分の生活が、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、アイヌの人たちに助けられながら、北海道を探検した松浦武四郎の功績に触れることを通して、多くの人たちの支えや助けによって自分の生活が成り立っていることへの感謝の気持ちやそれに応えようとする態度を育てることをねらいとしています。

前半では、「この目でいろいろな土地を見てまわりたい。」という思いの強かった松浦武四郎が、蝦夷地（現在の北海道）を探検することを決意する様子に触れています。

後半では、一人で蝦夷地に降り立った松浦武四郎が、アイヌの人たちと暮らしを共にし、同じものを食べ、食料を平等に分けながら探検を続ける姿が示されています。

指導に当たっては、松浦武四郎がアイヌの人たちとの関わりについて多面的・多角的に話し合い、多くの人たちの支えや助けがあって、今の自分があることについて深く考えさせることが重要です。

4 展開例—①「武四郎とアイヌの人たちの関わりについて話し合う活動を通して、感謝について考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の目標や取組について発表する。 ○ これまで自分の目標や取組を支えてくれた人はいますか。また、その人たちのことをどう思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族はいつでも見守ってくれて、やさしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分の生活を支えてくれている人たちを想起する場を設ける。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材『「北海道」の名付け親』を読み、話し合う。 ○ 自分たちと同じものを食べ、食料を平等に分ける武四郎のことを、アイヌの人たちはどのように思っていたでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの役人たちとは違うな。 ・食べ物を平等に分けたり、一緒に暮らしてくれたりしてやさしい人なんだな。 ○ アイヌの人たちの優しさに涙を流した武四郎は、アイヌの人たちにどんな思いを抱いたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人たちの暮らしを守らなければいけない。 ・こんなにも自分に優しくしてくれて感謝している。 ◎ 「北加伊道」という名前を考えながら、武四郎はアイヌの人たちにどんな思いを寄せていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでもアイヌの人たちのことを忘れない。 ・あの土地は、アイヌの人たちのための大切な土地だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人たちの立場から考えることで多面的に考えられるようにする。 ・アイヌの人たちのおかげで、自分が探検を続けることができていることに対する武四郎の気持ちを話し合い、感謝についての価値理解を深められるよう働きかける。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分と周囲の人との関わりについて考える。 ○ 自分を支えてくれている人や助けてくれる人に対してどのように関わっていきたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうという言葉をしっかり伝えたい。 ・支えてもらうばかりではなく、自分もその人のためにできることをやってあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や生き方を振り返り自己の理解につなげる。 ■ 自分の生活を支えてくれている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする思いについて考えている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説話を聞く。 ※教師がこれまでの経験から感謝したことやその人のために応えようとしたことについて話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に感謝し、それに応えようとする態度が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「粘り強く努力することの大切さ」〔努力と強い意志〕

2 ねらい

困難があってもくじけず、努力して粘り強く取り組もうとする心情を育む。

3 展開例—②「松浦武四郎の生き方から、信念を貫き、努力することについて考える展開」

4 主な学習活動

(1) 松浦武四郎が、「旅には生きた学問があります。私はこれから、さまざまな国々の動きを知りたいのです。」と父親に熱い思いをぶつけたとき、どのようなことを考えていたのでしょうか。

- ・幼いころからの夢を何とか実現させたい。
- ・父親に本当の自分の気持ちを伝えて認めてもらいたい。
- ・いろいろな国に行って、見聞を広めたい。

(2) 一人で蝦夷地に降り立ち、アイヌの人たちの協力を得ながら探検する松浦武四郎は、どのような思いで探検を続けていたのでしょうか。

- ・ロシアとの関係など、蝦夷地のことをしっかりと調べたい。
- ・アイヌの人たちの苦労や人柄をみんなに伝えたい。
- ・いろいろなことを調べて書物にするためには、簡単に帰るわけには行かない。

(3) 粘り強く努力を続けるために、何が大切なのでしょうか。

- ・あきらめない気持ちをもつこと。
- ・目標をしっかりとつこと。
- ・周りの人たちの力を借りること。

□ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 国語科

読むことの学習において、興味のある人物の生き方や人生等を描いた伝記を読むことを通して、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えることができるようにする。また、松浦武四郎の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付けることを通して、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめることができるようにする。

■ 社会科

江戸時代の人たちのくらしの学習において、アイヌの人たちの独自の文化や生活習慣などに触れるとともに、本教材を活用することを通して、アイヌの人たちの言語や文化を継承するための取組が行われていることについて理解することができるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

一人一人のキャリア形成と自己実現に関する指導において、本教材を活用することを通して、よりよい学級や人間関係を築こうとする実践的な態度を身に付けたり、集団の一員としてのよりよい生き方について考えを深めたりすることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えたり、各家庭において、北海道について命名される経緯や北海道の歴史、アイヌの人たちの文化等について話し合ってもらったりすることを通して、北海道の歴史や文化を大切にしようとする実践意欲を高めることができるようにする。